

豊後高田の「石の美」巡りの旅



表紙：豊後高田の石造文化財

(1) 本日の行程

08:45 豊後高田市役所正面玄関前 集合、受付

09:00 出発

09:30 熊野磨崖仏着

・熊野磨崖仏 (国有形・国史跡)	・石造宝塔 (県有形)
・熊野集落	・熊野の耶馬

10:45 熊野磨崖仏出発

10:55 福寿寺着

・福寿寺薬師堂磨崖国東塔 (県有形)

11:15 福寿寺出発

11:30 田染荘小崎着

・延寿寺石殿 (県有形)	
・阿部武則氏宅・馬屋 (国文景重要建物)	・フロノモトイゼ (国文景構成要素)

12:00 田染荘小崎出発

12:10 三ノ宮の景着 (昼食)

12:50 三ノ宮の景出発

13:10 塔ノ御堂着

・塔ノ御堂板碑 (県有形)	・塔ノ御堂国東塔 (市有形)
---------------	----------------

13:30 塔ノ御堂出発

13:45 画像石収蔵庫着

・画像石 (県有形)

14:05 画像石収蔵庫出発

14:15 昭和の町着

・旧共同野村銀行 (国登録有形)	・高田城石垣
------------------	--------

14:55 中央公民館発

15:00 高田庁舎到着。

平成28年 5月21日 (土)

豊後高田市教育委員会

豊後高田の「石の美」・序章

○「石の都」大分県

大分県にはいくつかの火山帯が入り混じって通っており、石が豊富な土地柄です。石仏としては全国唯一の国宝・臼杵石仏や、新日本三景の耶馬溪など、県を代表する文化財・景観は石でできたものが多く、まさに「石の都」と呼ぶに相応しい場所です。

特に磨崖仏は全国の8割が集中しており、国指定では、熊野磨崖仏、鍋山磨崖仏、元宮磨崖仏、菅尾磨崖仏、元町石仏、高瀬石仏、犬飼石仏、緒方宮迫石仏があります。



国宝・臼杵石仏

○国東半島の「石の美」

国東半島は耶馬溪地形を土台に、両子山の火山活動によってできた火山岩（安山岩など）・凝灰角礫岩の層があり、石の種類が多様にあります。石の特性を見極めて多様な石造文化財を生んだことが、国東半島の「石の美」の特徴です。

独自様式を持つ国東塔や、関東のものとは違った趣きのある板碑などが、その代表です。

安山岩は硬いので、複雑なものを造っても破損しにくいですが、加工にも時間と技術が必要です。凝灰角礫岩は柔らかく加工しやすいが、表面以外の硬度が安定せず、崩れやすいという難点があります。

また、耶馬溪地形が土台となっているので、耶馬溪に似た景勝地を多数楽しむことができます。



名勝・耶馬溪「競秀峰の景」



関東の板碑

石造文化財の見方



国東塔



板碑



宝篋印塔

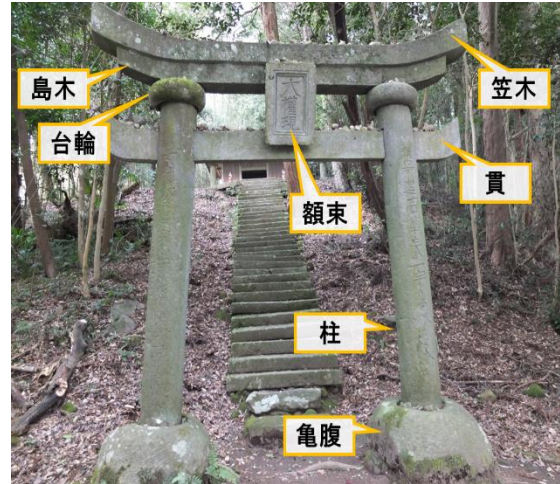


五輪塔

豊後高田で最も有名な「石の美」熊野磨崖仏



無縫塔



鳥居



石幢



庚申塔

○熊野磨崖仏（国指定有形文化財・国指定史跡）

熊野磨崖仏は、田染熊野の耶馬の中につくられた巨大な磨崖仏で、霊験あらたかな原生森の雰囲気とあいまって「佛の里」を演出する市内きっての「石の美」です。堅い岩盤につくられた磨崖仏は半肉彫りで、白杵石仏など県南の磨崖仏とは違った趣きがあります。

向かって右側には密教において最高の尊像とされる大日如来（平安時代後期）、左側には六郷満山で最も信仰の厚かった不動明王（鎌倉時代）を配置します。

大日如来は螺髪のりかみの1粒まで細かく彫り出しており、面相も写実性の高い平安・仏教美術の粋を感じることができます。それと比べると不動明王はやや稚拙ですが、人々を包み込むおおらかな姿をして、高い人気があります。

○意外と知らない？熊野磨崖仏の豆知識

①不動明王の両脇には童子が仕えている？

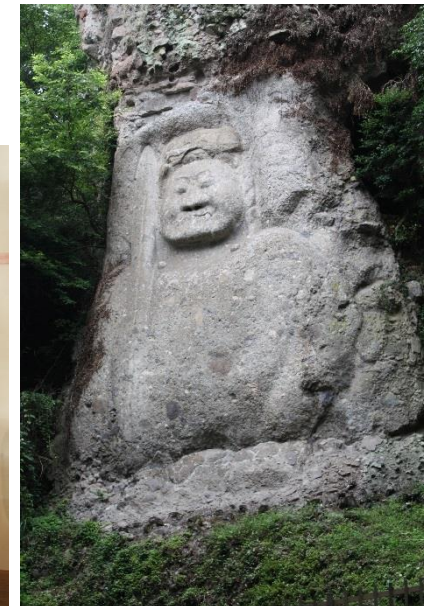
熊野磨崖仏の不動明王像は、実は「不動三尊こんがら（せいたか 矜羯羅童子・制吒迦童子を従えている）」なのです。

よく見ると、右側に合掌のポーズの矜羯羅童子がうっすらと見えますね。

制吒迦童子は、更に薄くしか残されていませんので、像容を確かめるのは、かなり難しいです。



矜羯羅童子



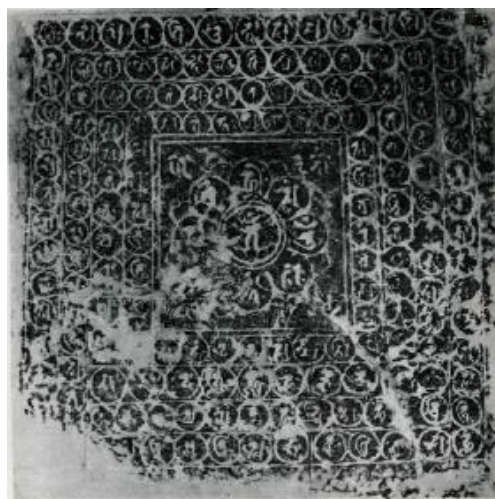
熊野磨崖仏・不動明王

②大日如来の上には、曼荼羅が3つも彫られている？

左から金剛界・理趣・胎蔵界の曼荼羅が陰刻されています（右写真は、胎蔵界曼荼羅の拓本です）。

大日如来像自体は、平安時代後期につくられたと考えられていますが、この地に熊野信仰（和歌山県・熊野三社にはじまる自然信仰と密教が深く混雑した信仰）が持ち込まれた際に追刻されたと考えられています。

熊野磨崖仏には300以上の仏様を拝むご利益があるということですね。



③2像の間にある小像の正体とは？

この小像が何を表しているのかという疑問については色々な説がありました。像が頭に載せているものについて、元々は菩薩像の宝髻だとされていましたが、現在では熊野神の烏帽子だろうという説が有力になっています。熊野神であれば3体セットが普通なので、右側の1体は壊れてしまったのでは？と考えられています。



宝髻

熊野神像



大日如来像

熊野墓地の国東塔の美

○「国東塔」誕生の話

市を代表する石造文化財として「国東塔」と呼ばれるものがあります。

国東塔は、鎌倉時代後期に国東半島で生み出された特殊な「石造宝塔」であり、一般の石造宝塔が、蓮華座と呼ばれる台座に乗っているものを指します。

明治45年（1912）に、富貴寺大堂の修理事業の関係で本市を訪れた京都大学の天沼俊一博士によって、国東塔と名付けられました。



天沼俊一博士



富貴寺の国東塔

○石造宝塔（県指定有形文化財）

市内を代表する国東塔の1基。樽型の塔身には応安8（1375）年に当地において逆修の結願を行った人々の名前に加え、塔を建立する経緯から大工の名前までが刻まれています。

柔らかい凝灰岩を使っているため、銘文の刻みが繊細であり、残りも極めて良いです。笠の軒口の分厚さ・垂木の造りは南北朝の新様式で、全体として迫力のある姿を見せています。請花・反花の造りも細密で、市内の国東塔の中でも特に手の込んだつくりの1基であると評価されています。



石造宝塔（熊野）

熊野集落に見つける「石の美」

○田染熊野の坊集落

田染熊野地区は、江戸時代の田染組に含まれていましたが、その成り立ちは田染荘小崎や田染真木などとは違って、寺院の坊が密集している地域でした。

これらの坊は従来半農で生きてきましたが、江戸時代の身分制度の中で、生計を立てられなくなり、農家へと転身します。

この熊野集落では、石垣を使って傾斜地に平坦面を作り出しており、茅葺の家屋は絶妙な場所に礎石を置くなど、石材加工の技術が光っています。田染の中でも熊野地区は石工・松本儀平次らを輩出しています。



ひっそりと立つ磨崖国東塔の美

○福寿寺薬師堂磨崖国東塔（県指定有形文化財）

市内の国東塔の中でも変わっているのが、磨崖国東塔です。同系列の指定文化財として黒土・身濯神社磨崖宝塔、城前・別十字磨崖宝塔がありますが、この磨崖国東塔は少し沿った照る屋根、肩を張った塔身、蓮華座の細部まで表現できています。「永享／香以／癸丑」と銘があり、永享5年（1433）につくられた事も分かっています。

高さは約90cmで市内の指定国東塔の中では最小で、田染地域に多く残されている磨崖の文化と国東塔が結び付いた珍しい文化財として、県指定有形文化財になっています。



荘園の暮らしと石の美

○延寿寺石殿（県指定有形文化財）

石殿は大分県では国東半島や県北に見られる独特な石造物で、仏殿を石で表現したものです。

延寿寺石殿は、田染荘の新田開発と仏教興隆につとめた田染荘官・田染栄忠が応仁2（1468）年に造立した優品で、入母屋造の屋根は、垂木の部分まで細密につくられています。

六地藏・虚空蔵菩薩・聖観音菩薩が表現されており、四面に手抜きは無く、どこから見ても美しいことが特徴です。田染地域で盛んであった浄土思想や、栄忠の厚い信仰心を感じることができます。



○「かとのいやしき（角の居屋敷）」馬屋（国の重要文化的景観の重要建物）

田染荘小崎の中でもひととき大きな「かとのいやしき」は、鎌倉時代の古文書にも登場する屋敷です。建築自体は江戸～明治時代のものですが、屋号に「カド」とあり、位置としてはほとんど変化していないと考えられています。

近代初期の農家建築は、母屋・付属屋・蔵・馬屋の4棟を備えており、庭木や畑、屋敷神の祠を備えていました。かとのいやしきはそうした農家建築の代表であり、特に江戸時代に遡るとされる馬屋は「ネリベ（練塀）」「ネルベ」等といって石や土を混ぜて造られたものです。



石塔のある小堂の文化財

○フロノモトイゼ（国の重要文化的景観の構成要素）

田染荘小崎には、地形を利用したイゼが残されています。

フロノモトイゼもその1つで、川の水が流れる^{おうけつ}甌穴の上に、石を積み上げて水をせき止めてあり、火山岩質の国東半島の地形を熟知した形のイゼを造り出しています。農村の歴史を伝えるダイナミックな造りは、他と比較できない美を持っています。



石柱の風景 田染耶馬・三ノ宮の景

三ノ宮の景は、市内でも有名な景勝地の一つです。鋭く天に伸びる石柱は、「柱状節理」という耶馬溪地形の代表的な姿です。

江戸時代初期の田染荘の村絵図（観音堂村）にも描かれていますし、明治40年発行『大分縣写真帖』にも豊後高田市代表の1枚に選ばれています（他は富貴寺・桂川）。



○塔ノ御堂板碑（県指定有形文化財）

○塔ノ御堂国東塔（市指定有形文化財）

小田原の小堂「塔ノ御堂」では、国東半島の石造文化財のはじまりと出会えます。

大型の板碑と御堂の名の由来になった国東塔は、ともに鎌倉時代のもので、市内では最古級のものです。板碑は美しい舟形で、薬研彫りの種子からは豪壮さを感じます。蓮華座も持っています。国東塔は延慶3年（1310年）の銘があり、国東半島では3番目に古いです。四方に仏像を彫り込む例は少なく、各部材の造りも極めて良いです。



石に刻まれた線画の美

○画像石（県指定有形文化財）

青宇田・延命寺の僧侶がつくった画像石は、扁平に割れる地域の石材をキャンバスにして描かれた94枚の線画です。これだけ多くの画像石が集まっている場所は他にはありません。五百羅漢・阿弥陀如来の来迎・地獄の閻魔庁などは特に大きなもので、南北朝～室町時代にかけて国東半島に流入した新しい末法思想などと深い関係があると考えられます。



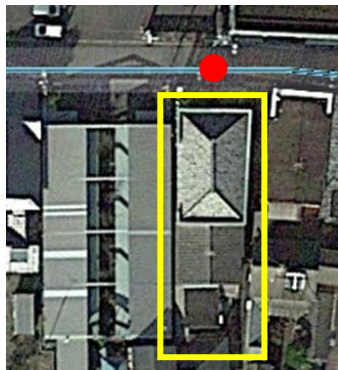
五百羅漢図

昭和の町に残る「石の美」

○旧共同野村銀行社屋（国登録有形文化財）

旧共同野村銀行(現・清照別館)は、昭和初期に建設された豊後高田を代表する近代銀行建築の一つです。一見すると、石造りの重厚な建物のように見えますが、実は「木造瓦葺平屋建て」です。ただし、銀行の心臓部でもある金庫室に限っては、耐久性・防火性を鑑みて「鉄筋コンクリート造」となっています。

外観は正面の壁をタイル張り、整然と並んだ縦長の上下窓、胴部分の彫刻装飾、腰壁部分の石張り、中央に銅製の模様欄間付きの出入口、入口上部の壁には三本の装飾円柱、高い軒蛇腹には上部の唐草模様と装飾彫刻を施した古典主義的な様式をデザインした優れた姿形をしています。



上空から見た社屋

本日ツアーで巡った文化財リスト

熊野磨崖仏【国有形文化財・国史跡】

石造宝塔【県有形文化財】

本市を誇る磨崖仏の里、熊野集落にはたくさんの「石の美」が残されている。集落の墓地には坊集落の人々の望みを刻んだ国東塔があり、集落の対面には耶馬の景観もある。



福寿寺薬師堂磨崖国東塔【県有形文化財】

田染平野・陽平の集落にある福寿寺薬師堂。御堂の背後にある岩には、磨崖仏・石仏などが残されるが、その端にひっそりと立つ磨崖国東塔は、同系統の文化財では群を抜いた造形で市を代表する「石の美」の1つと言える。



田染荘小崎の農村景観【国の重要文化的景観】

延寿寺石殿【県有形文化財】

国東半島の荘園村落では、農業に石が欠かせない。棚田の石垣のほか、ネルベと呼ばれる土石を使った馬屋は、豊後高田の農村景観を代表する「石の美」でもある。



三ノ宮の景【未指定】

三ノ宮八幡社の鳥居を挟んだ場所に聳える「柱状節理」を含む風景は豊後高田を代表する景勝地である。昭和初期から変わらぬ「石の美」を改めて評価したい。



塔ノ御堂板碑【県有形文化財】

塔ノ御堂国東塔【市有形文化財】

塔ノ御堂にはその名の由来となった国東塔が残されている。鎌倉時代の銘と四面仏を彫りこんだ優美な大型塔だが、完形でないのが惜まれる。また板碑も大型で蓮華座に乗った珍しいもの。



画像石【県有形文化財】

南北朝～室町時代にかけて10年で彫られた線彫りの仏面群。全国に類を見ないほど数が多い。数多くの阿羅漢や、閻魔庁、来迎図などが描かれる市を代表する「石の美」である。



昭和の町【登録有形文化財など】

高田城石垣【未指定】

昭和の町には石造りの近代建築が建てられた。特に野村銀行・高田銀行社屋の2棟はモダンな雰囲気を出し出す。町のシンボル・高田城の石垣も、切り接ぎによる直線の石垣が美しい。

